

資源の有効活用による循環型地域社会の形成

～廃棄物の発生抑制、再利用・再生利用、適正処理の推進～

【重点目標】

■一般廃棄物の減量・リサイクル

【目標：2000年度に対し、5%削減、再資源化率22%（2010年度）】

2006年度における市民一人一日あたりの一般廃棄物の排出量は、2000年度と比べ11.1%削減しました。また、再資源化率は14.5%です。

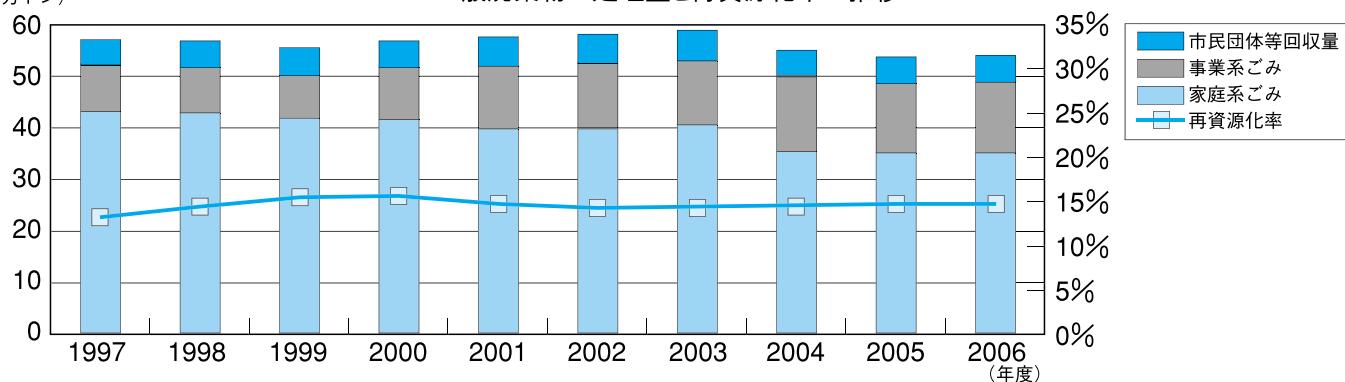
■産業廃棄物の減量・リサイクル

【目標：産業廃棄物の排出量を1999年度レベルに抑制、再資源化率を51%とする】

市域から発生する産業廃棄物の量は、463.4万トン（1999年度実績）から496.2万トン（2004年度実績）に増加していますが、再資源化率（資源化量÷発生量）は58.2%となっています。

(万トン)

一般廃棄物の処理量と再資源化率の推移



川崎市一般廃棄物処理基本計画 (かわさきチヤレジジ3R)推進中!

●収集体制の再構築（普通ごみ収集回数の見直し）

2007年4月1日より、曜日による作業量の差をなくすため、普通ごみの収集を週4回から週3回とし、「月・水・金」「火・木・土」の2地区に分けて収集を行っています。これに伴い、人員・車両等を再配置し、作業の平準化を確保するとともに、資源物の収集日を増やし、新たな分別収集品目の拡大を目指します。

●ミックスペーパーのモデル収集

2006年11月より川崎区・幸区の約4,200世帯でミックスペーパー（難再生古紙を含む雑かみ）のモデル収集を開始しました。2007年4月、収集体制の再構築に伴い、収集地域を約15,000世帯まで拡大しました。今後も、収集地域を拡大し、早期の全市実施を目指します。

●生ごみリサイクルプランの推進

家庭系ごみの中で高い比率を占める生ごみの、減量、資源化を進めるべく、「かわさき生ごみリサイクルプラン」を策定しました。家庭用生ごみ処理機の購入費助成についても、2007年度より助成額を拡充するとともに、生ごみリサイクル講習会も実施します。今後も、多くの方が生ごみの減量化に取組めるよう情報提供に努めます。

川崎市産業廃棄物実態調査結果(2004年度実績)

(単位：万トン、%)

	種類別排出量	業種別排出量	種類別 再資源化量	業種別 再資源化量
1	汚泥 204.8 (66.5%)	製造業 122.7 (39.9%)	鉱さい 154.1 (53.3%)	製造業 224.1 (77.5%)
2	がれき類 53.8 (17.5%)	電気・水道業 92.7 (30.1%)	がれき類 50.1 (17.3%)	建設業 60.9 (21.1%)
3	鉱さい 16.2 (5.3%)	建設業 89.6 (29.1%)	ばいじん 39.9 (13.8%)	電気・水道業 2.3 (0.8%)

第4次川崎市産業廃棄物処理指導計画の策定

この計画は、本市における産業廃棄物の計画目標、施策の体系化及び数値目標の設定を行うもので、これにより産業廃棄物部門からの循環型のまちづくりを目指します。

【計画期間】2006年度～2010年度

【計画目標】最終処分量の削減

【施策の柱】①3Rの推進 ②適正処理の推進

【新たに取り組む施策】

- ①☆優良性評価制度(2006年度末現在 基準適合業者5件)
- ②☆電子マニフェストの導入

【3つの目標数値】

- ①排出量…現状維持(2004年度の排出量3,078千トン)
- ②再生利用率…34.3%(2004年度の再生利用率32.7%)
- ③埋立処分量…50%削減(2004年の埋立処分量124千トン)